

## OUR STRATEGY

## 産業電子モビリティグループ



“半導体市場の更なる成長や幅広い業界で進展する電動化を商機とし、業績回復へと邁進します”

執行役員副社長  
産業電子モビリティグループ長 鈴木 雅彦

## 事業環境

## 機会

- 社会・産業における電動化やデジタル化の進展 (セグメント共通)
- 電動化及び省人化ニーズの伸び(電動化)
- 生成AIの進化などを背景とした、将来にわたる半導体需要の拡大観測(電子)
- 自動車の電動化に伴うバッテリー及び電動パワートレイン開発の加速(モビリティ&S)

## リスク

- お客様によるコンポーネント内製化の進展に伴う需要減(電動化)
- 半導体市場の一時的な冷え込みや回復の遅れ(電子)
- エンジン車向け等の試験機市場の縮小(モビリティ&S)

## 強み

- 多様な用途のモーター制御に対する知見(電動化)
- 特長技術を活かした製品の存在(電子)
- 豊富な納入実績に裏付けされたお客様課題の解決能力(モビリティ&S)

## 2023年度の振り返り

- ▶ 電動化ソリューション事業は、主要なアプリケーション全般にわたり需要が落ち込んだものの、価格改定効果により収益は改善
- ▶ 電子機器事業は、世界的な半導体市場の低迷により、売上・利益ともに大幅減
- ▶ モビリティ&S事業は、お客様の設備投資に一部戻り傾向が見られたことで増収

## 2024年度以降の展開

## 半導体市場の回復・拡大がグループの成長を牽引

## 電動化ソリューション事業

- ▶ 需要の回復が見込まれる国内主要納入先を中心に、電動化の進展により生まれる新たな製品ニーズの取り込み

## 電子機器事業

- ▶ 生成AIの発展・普及等を背景としたグローバルでの半導体需要の拡大に伴い、2024年度後半から中長期にわたる市況回復を想定

## モビリティ&amp;S事業

- ▶ 電動化に関連した自動車開発設備のラインアップ拡充と、製品のライフサイクル全体をカバーする提案活動への注力

## TOPICS

電動ミニショベル用コンポーネントをコマツへ納入  
建設機械市場でも進む電動化への貢献

## IMPACT 定量的な社会インパクト

エンジンからモーターに置き換えることで

▶ 排気ガス・排熱 **ゼロ**



明電舎は、コマツの新型電動ミニショベル向けに、動力源となる電動コンポーネントの納入を開始しました。

コマツは2023年度を電動化建機の市場導入元年と位置付け、欧州市場と国内市場向けに3トンクラスの電動ミニショベルを投入。バッテリーからの電力を交換・制御する「インバーター」、油圧ポンプの動力源となる「モーター」、車両の電装品に電力を供給する「電源コントローラー」に明電舎製品をご採用いただき、当社としては初の建機向け電動コンポーネントの納入となりました。

明電舎はこれまで、電動フォークリフトに搭載する走行・荷役用のモーターとコントローラーをコマツに納入してきました。今回、両社の協働によるカスタマイズ開発の中で共有してきた蓄積技術を元に、建機市場の電動化促進に寄与する製品を実現しました。本製品への

取組みにより得られる電動化建機に関する知見を活かし、より競争力のある製品の開発につなげていきます。

明電舎  
電動化ソリューション営業・  
技術本部  
電動化技術部 技術第一課  
糸田 典宏



## 2024年度経営目標(期初時点)

